

ハタハタ

日本海海域

Arctoscopus japonicus

地方名
かみなりうお



生態

- ①寿命：約5年
- ②成熟：オス1歳（全長14cm）以上
メス2歳（全長21cm）以上
- ③産卵期：11月下旬～翌年1月
- ④産卵場：水深2～10mのホンダワラ類の藻場
- ⑤分布：北海道沿岸、秋田県男鹿半島を中心とした日本海沿岸、朝鮮半島東部沿岸。
- ⑥生態：水深150～400mの砂泥域に生息。
食性は端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類。

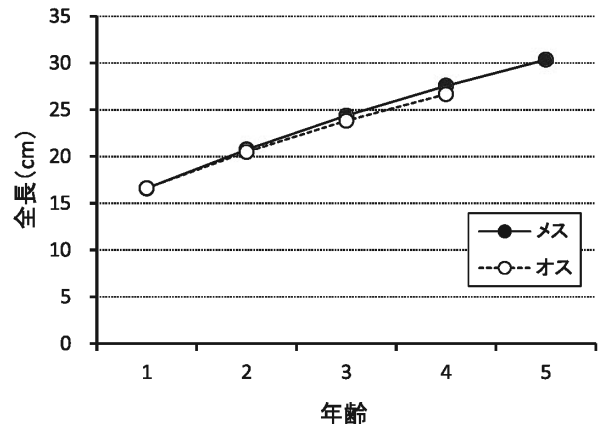


図 日本海海域におけるハタハタの成長

主な漁業

定置網、さし網、底びき網で漁獲。主漁期は11月下旬～12月。1歳魚から漁獲される。

漁獲の動向と資源の水準

昭和40年～50年には大きく変動するものの、1,000トン前後の漁獲があったが、51年以降低迷した。平成12年以降増減を繰り返し、平成20年は日本海で1,362トンと33年ぶりに1,000トンを超えた。平成26年は平成25年とほぼ同等の754トンの漁獲であった。

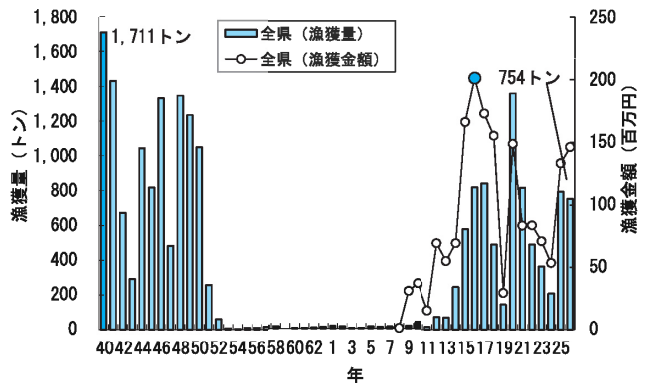


図 青森県日本海海域におけるハタハタの漁獲量の推移
※平成19年までは水産総合研究所調べ、平成20年以降は青森県海面漁業に関する調査結果書

漁獲の動向



横ばい

資源の水準

中位

資源を上手に利用するために

- 北部日本海海域ハタハタ資源管理協定（平成11年4月締結、26年4月更新）
 - ・底びき網漁業において、全長15cm未満個体の採捕禁止が定められた。
 - 日本海北部マガレイ、ハタハタ資源回復計画（平成15年7月水産庁）
- ☆上記の取り組みを継続する必要がある。

トピックス

- ・産卵後のハタハタの回遊生態を明らかにするため、平成25年に産卵後親魚2,000尾への標識放流を実施した。
- ・ハタハタの漁獲量は年変動が大きいことから、毎年の漁期前に来遊時期、魚体サイズ、漁獲量について予測を行っている。